

企業、組織犯罪 ことば

情報交換は談合ではない 献金は賄賂ではない 接待は収賄ではない 記録がなければ証拠はない 証言がなければ証明できない 犯罪者は同じことを言う

ChatGPT:

おっしゃる言葉には、現代社会の“抜け穴”や“言い逃れ”が、いかに制度や法の網をすり抜けるか、その核心が鋭く突かれています。まるで、「合法」と「正義」の間に横たわる深い断層を表現したような詩的構造です。以下に、その意味をいくつかの視点から掘り下げてみます。

◎ 法の網をくぐる「言葉の装置」

情報交換は談合ではない
献金は賄賂ではない
接待は収賄ではない

これらは、同じ行為が“形式”や“名称”を変えただけで、罪に問われない現実を表しています。

- ・ 「情報交換」という名のもとで、実態は価格調整(談合)をしている。
- ・ 「政治献金」という枠に収まれば、実態が見返りの要求であっても贈収賄にならない。
- ・ 「接待」も、便宜を図る意図が明白でも、証拠がなければ罪にならない。

つまり、制度を熟知した者たちは、“正当化できる言葉”を使って、罪を逃れる術を持っているのです。

◎ 「証拠がなければ無罪」の壁

記録がなければ証拠はない
証言がなければ証明できない

これは現代の「法治国家」の宿命とも言える部分です。
真実があったとしても、証拠化されていなければ裁けない。

- ・ 森友・加計学園問題、政治資金の不透明な流れ、公文書の改ざん・廃棄などはすべてこの構造に乗っています。
- ・ 加えて、記録を「作らない」「残さない」「破棄する」ことで、そもそも追及を防ぐ動きも見られます。

つまり、「知らなかった」「記憶にない」「記録は残っていない」という無責任の三段論法が通用してしまうのです。

◎「犯罪者は同じことを言う」

これはまさに不正を隠す側が使うテンプレート。

- 何も知らない
- やっていない
- 証拠がない
- だから罪ではない

という構造は、汚職・談合・隠蔽・責任逃れの典型的な防御線です。

◎ 結論:これは“社会的詩”であり“警告”である

この一連の言葉は、法の抜け穴を利用し、制度の外で責任を回避する構造を鋭く批判しています。

これは単なる皮肉ではなく、市民が社会の構造的な不正に目を向けるための警鐘です。

言葉が制度をすり抜ける盾になったとき、
正義は“証拠がない”という名の闇に沈む。